

新潮日本古典集成

平家物語  
上

水原一校注

新潮社版

新潮日本古典集成

平家物語

上

水原一校注

新潮社版

新潮日本古典集成（第二五回）  
平家物語 上



校注者 水原 一  
昭和五十四年四月五日 印刷発行  
発行者 佐藤亮一  
昭和五十四年四月十日 印刷発行

大日本印刷株式会社  
株式会社 新潮社  
印刷所 佐藤亮一  
発行所 新潮社

〒162 東京都新宿区矢来町七一  
電話 東京03(366)5111(業務)  
振替 東京03(366)5411(編集)  
東京 41808

装画 佐多芳郎  
組版 シーティエス大日本  
製本 新宿加藤製本

定価一八〇〇円

乱丁・落丁本は、御面倒ですが小社通信係宛御送付  
下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。

目 次

凡 例 ..... 五

卷 第 一 ..... 三

卷 第 二 ..... 一〇九

卷 第 三 ..... 一九

卷 第 四 ..... 二八九

解 説『平家物語』への途 ..... 三七

付 錄 ..... 一四三  
図録・系図

平家物語 卷第一

第一句 殿上の闇討

序（祇園精舎）……………元  
忠盛昇殿 殿上闇討……………元  
忠盛・季仲・家成五節の舞……………元

忠盛申しひらき……………元  
忠盛和歌 忠度の母の事……………元

第二句 三台上緑

忠盛死去 清盛官途……………元  
清盛五十一出家の事……………元  
かぶろの沙汰……………元

兄弟左右大将……………元

八人の娘……………元

平家繁昌……………元

第三句 二代 后

宮中に御艶書の事……………元  
二化の御宇の沙汰……………元

きさき御入内  
きさき障子の御歌の事

第四句額打論

四六四

二条の院皇子親王宣旨の事  
二条の院崩御二十三 后御出家の事

四九 四八

額打論上炎水清

五〇

左衛門入道西光近習騒口の事  
主上高倉の院御即位

五

第五句義

五

義王・妹義女が事 母のとぢの事  
白伯子の因縁

五  
五

仏御前の事  
義王西八条を退去

三七

母とち教訓 義王西八条(て)参向

卷六

第六句義王出家

六七

義王出家

究 穴

四人後白河法皇の過去帳にある事

七

第七句 殿下乘合

七

後白河院御法体の事

殿下乘合

清盛殿下を恨す

資政由勢の因 / 30

第八句成親大將謀叛

主上高倉の院御元服 清盛女人内

新編 日本書

卷之六

北面の因縁

師經狼藉

白山みこし東坂本へ入御

.....

第九回 北の政所

關白殿御病の事

関白殿平憲の事

関白殿御薨御の事

第十句 神輿振り

度刃の長三寸、頭故の御吏十三人

頬致深山の花の和歌

神輿祇園に人御

平大納言時忠山門勅使の事

平家物語 卷第二

師高・師經御裁断 .....  
内裏そのほか京中焼失の事 .....  
一〇元

第十一句 明雲座主流罪

覺快法親王座主の事 .....  
明雲俗名大納言大夫藤井の松枝 .....  
根本中堂に至つて西光呪咀の事 .....  
澄憲法印伝法 .....  
一一三  
一一三  
一一四  
一一五

第十二句 明雲帰山

大衆先座主尊ひとるべき斂議 .....  
十禪師權現御託宣 .....  
座主尊還 .....  
いかめ坊 .....  
一行阿闍梨の沙汰 .....  
九曜の曼陀羅 .....  
一一六  
一一七  
一一八  
一一九  
一一一  
一一二

第十三句 多田の藏人返り忠

座主流罪沙汰やみ .....  
多田の藏人返り忠 .....  
六波羅つはもの捕ひ .....  
新大納言追捕 .....  
西光法師追捕 .....  
一一三  
一一三  
一一四  
一一五  
一一六  
一一七  
一一八  
一一九

西光法師死去	一〇〇
師高・師経誅戮	一一〇
新大納言成親拷問	一二〇
難波・瀬尾折檻の事	一三〇
第十四句 小 教 訓	一三五
小松殿成親を乞ひ請くる事	一三五
小教訓	一三五
北野の天神の事	一三六
宇治の悪左府実檢の事	一三六
○ 小松殿武士を教訓	一三七

第十五句 平宰相、少将乞ひ請くる事

北の方鳥丸宿所出でらるる事	一四〇
少将院の御所に御いとま乞ひの事	一四〇
少将西八条屈請の事	一四〇
少将乞ひ請け安堵の事	一四〇

第十六句 大 教 訓

太政入道法皇を恨み奉る事	一四五
小松殿西八条入御の事	一四五
大教訓	一四五
小松殿つはもの揃ひ	一四五
裏城烽火の事	一四五
小松殿の心ばへ	一四五

第十七句 成親流罪・少将流罪

新大納言配所に赴かるる事

新大納言の官途

児島の配所

丹波の少将遠流の事

有木の別所 阿古屋の松の沙汰

第十八句 三人鬼界が島に流さるる事

康頼出家

熊野勧請

祝詞

卒都婆流し

蘇武

第十九句 成親死去

成親出家

源左衛門尉信俊有木の別所へ使の事

吉備の中山において毒害の事

新大納言北の方出家

第二十句 德太寺殿敵島參詣

藤の藏人大夫意見の事

大將の祈誓

敵島の内侍実定の卿を送り奉る事 実定の卿大將成就の事

平家物語 卷第三

第二十一句 伝法灌頂

朝覲の行幸

二〇一

法皇三井寺において伝法 同じく天王寺において灌頂

二〇二

山門の学生と堂衆と不快

二〇三

山門衰微

二〇四

第二十二句 大赦

中宮御懐妊

二〇五

覚快法親王變成男子の法行はる事

二〇六

怨靈鎮撫

二〇七

教免狀

二〇八

足摺

二〇九

少将肥前様の莊に着く事

二一〇

第二十三句 御産の卷

寺社大願祈誓の事

二一一

御産の時よろづ物の怪の事

二一二

法皇の御祈りの事

二一二

皇子誕生の事

二一三

公卿揃ひ

二一四

第二十四句 大塔修理

二一五

弘法大師通化 ..... 二六

血書きの曼陀羅 ..... 二七

敵島の御託宣 ..... 二八

頼家阿闍梨の沙汰 ..... 二九

第二十五句 少將帰洛 ..... 三〇

少將有木の別所のとぶらひの事 ..... 三一

成經・康頼鳥羽に入る ..... 三二

成經・康頼七条河原にて行き別るる事 ..... 三三

少將帰洛 ..... 三四

○康頼東山双林寺へ着く事 康頼宝物集新作 ..... 三五

第二十六句 有王島下り ..... 三六

龜王死去の事 ..... 三七

有王鬼界が島渡り ..... 三八

主從邂逅 ..... 三九

俊寛姫の文を見る ..... 四〇

俊寛死去 ..... 四一

俊寛の姫出家 ..... 四二

有王高野奥の院籠居 ..... 四三

第二十七句 金渡し 風 ..... 四五

医師問答 ..... 四五

辻 風 ..... 四五

重盛熊野參詣 ..... 五六

医師問答 ..... 五六

重盛四十三死去 ..... 五六

元七

重盛兼康夢見

無文の太刀

重盛大唐育王山寄進

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

第二十八句 小督

第二十九句 法印問答

大 地 震 .....  
人道相国朝家を恨む .....  
静憲法印西八条へ使の事 .....  
太政入道意趣述べらるる事 .....  
法印返答の事 .....  
.....

第三十句 関白流罪

関白流罪 .....  
師長流罪 .....  
院近習没落 .....  
行隆の沙汰 .....  
法皇鳥羽殿へ御移りの事 .....  
静憲、法皇の御前に参らるる事 .....  
主上臨時の御神事 .....  
賢臣隠退着 .....  
明雲座主還着 .....  
城南の離宮 .....  
.....

平家物語 卷第四

第三十二句 畿島御幸

安徳天皇御践祚 ..... 元  
新院畿島御幸延引 ..... 元  
畿島御幸の門出 ..... 元  
新院鳥羽殿へ入御の事 ..... 元  
新院畿島御参詣 ..... 元  
福原別業人御の事 ..... 元  
高倉院帰洛 ..... 元  
安徳天皇御即位 ..... 元

第三十二句 高倉の宮謀叛

高倉宮以仁王 ..... 三〇四  
源氏捕ひ ..... 三〇五  
相少納言占形 ..... 三〇六  
新宮十郎藏人改名令旨 ..... 三〇七  
鳥羽殿馳怪事の事 ..... 三〇八

第三十三句 信連合戦

高倉宮謀叛露顕 ..... 三一〇  
宮の都落ち ..... 三一三  
信連小枝持參 ..... 三一四

高倉宮謀叛 ..... 三一五  
宮の都落ち ..... 三一三  
信連合戦 ..... 三一五

第三十四句 競

信連教さる事 .....  
信連鎌倉殿より召し出ださる事 .....  
..... 三八  
..... 三〇  
..... 三〇

第三十五句 譟

状

高倉宮三井寺に入御 .....  
木の下鹿毛金焼の事 .....  
..... 三〇  
遷城楽の物語の事 .....  
..... 三一  
頼政の都出で 競宗盛を欺く .....  
..... 三四  
南鎌金焼の事 .....  
..... 三五  
..... 三六  
..... 三九

第三十六句 三井寺大衆揃ひ

三井寺大衆宮同心の事 .....  
山門に対する状 .....  
..... 三九  
南都に対するの状 .....  
..... 三〇  
興福寺の返牒 .....  
..... 三三  
..... 三四  
..... 三四

第三十七句 橋 合 戰

頼政夜討の下知 .....  
一如坊が長姫議の事 .....  
..... 三八  
淨御原の天皇の物語 .....  
..... 三九  
函谷関の沙汰 .....  
..... 三四

小枝・蟬折れの沙汰 .....  
平等院にて合戦 .....  
矢切の但馬のふるまひ .....  
..... 三四  
..... 三九  
..... 三四  
..... 三四  
..... 三四

第三十八句 賴政 最後 ..... 簡井の淨妙のふるまひ ..... 西七  
一來法師の討死 ..... 西六

第三十九句

賴政 最後

渡河の僉議 ..... 西九  
足利又太郎宇治川下知 ..... 西八  
平家軍渡河 ..... 西七  
次男兼綱討死の事 ..... 西六  
賴政辞世 長七唱賴政首かくす事 ..... 西五  
嫡子仲綱討死の事 三男仲家その子仲光討死の事 ..... 西四

第三十九句

高倉の宮最後

高倉の宮最後 ..... 三七  
六条の大夫宗信未練 ..... 三七  
南都の大衆七千余騎御迎ひに参る事 ..... 三六  
首 実 檢 ..... 三五  
若宮出家 ..... 三五  
登乗の沙汰 ..... 三五  
調伏・追討の勧賞 ..... 三五

第四十句

鶴

賴政昇殿の歌並びに三位の歌 ..... 三五  
賴政近衛院の時鶴を射る 堀河の院の時怪事 ..... 三五  
賴長の左府を以て獅子王を賜はる事 ..... 三五  
賴政三条院の時再び鶴を射る ..... 三五  
三井寺炎上 ..... 三五

